

部課名		防災安全部防災課											
課の使命		市民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、市民の防災意識向上や町田市としての市の危機管理体制の強化に努めることです。											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定				中間確認		年度末確認					
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	まちだ防災カレッジ	<p>・「まちだ防災カレッジ」をより多くの市民に広く知ってもらい、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図るため、Instagram等のデジタルツールを新たに活用し、周知に努めます。</p> <p>・2022年度に開設したポータルサイトでは、「まなぶ」のコンテンツを充実させ、取組の幅を広げることで、市民により分かりやすい形で防災に関する基礎知識等を発信します。</p> <p>・「とりくむ」では、「アウトドア」と「防災」を組み合わせ「アウトドア防災」を、在宅避難や地域における屋外避難の新しい手法として、避難者数の多い地区中心に周知します。</p> <p>※市民の防災意識向上を目的とした「まちだ防災カレッジ」は、防災教育事業である「まなぶ」と地域の課題解決を目指す「とりくむ」の2つをテーマに事業を実施します。</p>	<p>① Instagramによる情報発信回数</p> <p>② 「とりくむ」実施地区数</p>	<p>① 36回</p> <p>② 2地区</p>	○	<p>・Instagramによる情報発信回数は、目標値の半数を超え(25回)、フォロワーを通じて、より多くの市民に防災情報を発信することができました。</p> <p>・ポータルサイトでは、避難施設関係者連絡会及び避難施設開設訓練の実施報告等を掲載し、避難施設ごとの取組みの見える化を図りました。その結果、模範となる活動を行っている避難施設の情報を確認することができ、避難施設運営の底上げに貢献することができました。</p> <p>・「まなぶ」では、水道キャラバン(8月22日開催、20名聴講)、東日本大震災の語り部(菊池のどか氏)による講演会(8月29日開催、35名聴講)、榎明治と連携したパバママ防災講座(8月31日開催、6名聴講)等を開催することで、市民の防災意識向上に努めることができました。</p> <p>・「とりくむ」では、「玉川学園・南大谷地区」では、9月9日から10日にかけて(1泊2日)、町田第五小学校校庭で屋外テントを活用した宿泊体験を実施しました。参加者(30名)には、アウトドアの経験を通じて、在宅避難時の備えや生き抜くための知識・技術を学んでもらうことができました。</p>	<p>・Instagram及びまちだ防災カレッジ公式アンバサダー等による魅力的な防災情報の発信を引き続き行うことで、市民一人ひとりの防災意識の高揚を図ります。</p> <p>・ポータルサイトでは、防災に関する基礎知識等のコンテンツを充実させ、取組の幅を広げます。</p> <p>・「まなぶ」では、全国自主防災組織リーダー研修会や防災市民組織リーダー研修等の情報を、市民に分かりやすい形で発信します。</p> <p>・「とりくむ」では、「町田第二地区」において、屋外テントを活用した宿泊体験を実施することで、屋外避難の新しい手法の周知を図ります。</p>	<p>・Instagramによる情報発信回数は、年間36回で目標を達成しました。また、まちだ防災カレッジ公式アンバサダーのSNSによる情報発信やイベント参加による広報活動等により、特に未来の担い手となる若年層など、より幅広い世代の市民に対して、これまで以上に防災情報を効果的かつ親しみやすく発信することができました。</p> <p>・講演会や各種講座の情報は、これまで市のホームページ等に掲載していましたが、外部ポータルサイトに移行し運用することで、講演会等の情報を市民により分かりやすい形で掲載し発信することができました。また、避難施設関係者連絡会等の実施報告等を掲載し、避難施設ごとの取組みの見える化を図ることで、模範となる活動を行っている避難施設の情報を確認することができるなど、取組みの幅を広げることができました。</p> <p>・「とりくむ」では、町田第五小学校(「玉川学園・南大谷地区」、9月9日、10日(1泊2日)実施)及びびなた村(「町田第二地区」、3月10日(日帰り実施)の2地区で、屋外テントを活用した宿泊体験や火起こし・炊事体験等を実施しました。その結果、参加者には楽しみながら災害時に必要なスキルを身に付けてもらうことができ、在宅避難や地域における屋外避難の新しい手法のひとつとして周知することができました。</p>	<p>① 36回</p> <p>② 2地区</p>	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>・「まちだ防災カレッジ」について、自主防災組織などの限られた市民のみではなく、市民一人ひとりに周知するため、デジタルツールのさらなる活用及びまちだ防災カレッジ公式アンバサダーによる防災情報の魅力的な発信に努めていきます。</p> <p>・より多くの市民、特に未来の担い手となる若年層に対して、防災に興味・関心を持ってもらい、市民一人ひとりが防災リーダーとなるようにするため、楽しく体験・学習できる防災イベントや防災講座等を実施していきます。</p>
2	経営改革プラン	町田市地域防災計画の修正	2022年度に公表された「首都直下地震等による東京の被害想定」、2023年度に修正される東京都地域防災計画の内容を反映するとともに、2022年度に実施した震災対応図上訓練で抽出した課題の解決とアイデアを盛り込み、町田市地域防災計画の修正を実施します。	町田市地域防災計画の修正	完了	○	<p>・防災会議で地域防災計画修正方針の承認を得ました。</p> <p>・防災対策推進本部会議に修正の付議を行い意見を募りました。</p> <p>・東京都の新しい被害想定を基礎データを取得し、避難者推計の見直しの作業を開始しました。</p> <p>・修正原案の作成を完了しました。</p>	<p>庁内、関係機関への協議、パブリックコメント等を実施し、年度内に修正を完了します。</p>	<p>・災害対策基本法等の改正や東京都地域防災計画(震災編)の内容を反映させるとともに、庁内、関係機関への協議、パブリックコメントの実施等により、幅広い意見を反映させた修正案を作成しました。</p> <p>・東京都の新しい被害想定に基づき避難施設ごとの避難者数の再推計を実施するとともに、町田市地域防災計画の修正案にも記載しました。</p> <p>・防災会議にて地域防災計画の修正について承認を得ました。</p>	完了	C	C:目標水準を達成したためです。	<p>・本修正に基づき、事業継続計画等の各種計画や各種物資の数の見直しを進めていきます。</p> <p>・修正について、広く市民へ周知する必要があります。</p>

年度目標設定				中間確認			年度末確認						
順位	計画 類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に 対する 実績値	評価 値	評価の 視点	課題と対応
3	個別 計画	消防団員確保	<ul style="list-style-type: none"> 若手団員の確保に向け、消防団の魅力を上させるとともに、SNS等を活用した情報発信を強化していきます。 東京都住宅供給公社との協定に基づく入団促進策が、若年層の入団につながるよう、積極的なPRを行っています。 消防団員及び担当職員の更なる負担軽減や事務の効率化を図るため、より一層デジタル化を推進します。 	情報発信回数	24回	○	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員数は498人(9月1日時点)です。消防団入団者20人のうち15人が10代から30代となりました。 若手団員の確保に向け、消防団の魅力伝えるべく、訓練やイベントの情報をインスタグラムで8回発信しました。 東京都住宅供給公社と締結している協定については、イベント等で協定のリーフレットと消防団員募集リーフレットを合わせて配布し、積極的にPRを行いました。 消防団員の負担軽減を図るために、要望書等のハンコレス化を行い、データをメールで提出できるようにしました。 	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員数511人(2023年度末)の確保に向け、引き続き、募集活動に取り組んでいきます。 消防団の魅力や活動のメリットなどを、若年層に向け積極的にPRすることでさらなる団員確保につなげるため、特に若手団員を中心に協力を得ながら、SNSや広報、HP等を活用して引き続き情報発信をしていきます。 協定を利用して入団者増加につながるよう、継続してイベント等でPRしていきます。 消防団員の事務作業負担を軽減できるよう、報告様式の改善に努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 消防団員数495人 若手団員が中心となり検討を行い、消防団の魅力や活動内容をSNSを通じて24回発信しました。その取り組みの成果として、新規入団者の30名中24名がSNSを参考にして入団している結果となりました。 都住宅供給公社との協定に基づく入団促進策については、イベント等で協定のリーフレット配布に加えて、庁内に向けて全庁掲示板でPRを行いました。 要望書類の簡素化やハンコレス化を行い、消防団の事務作業負担を軽減しました。 	24回	C	C:目標水準を達成したためです。	<ul style="list-style-type: none"> 消防団組織の体制を検討していきます。 引き続き若手団員確保に向け、消防団の魅力を上させ、SNS等を活用した情報発信を強化していきます。 都住宅供給公社との協定に基づく入団促進策について、若年層の入団につながるよう、積極的なPRを行います。 消防団員及び担当職員の更なる負担軽減や事務の効率化を図るため、更にデジタル化を検討していきます。
4	-	総合防災訓練 の開催方法の見直し	一日にまとめて開催していた町田市総合防災訓練について、演習や啓発イベントの開催日程を分散して実施します。開催日を分け、一つ一つの内容を見直しながら、より実践的な訓練を実施します。また、台風・豪雨等による自然災害や、感染症の流行等による影響を最小限に留めます。	新たな開催方法による総合防災訓練の実施	実施	○	<ul style="list-style-type: none"> 防災フェスタ2023を7月22日に開催し、約3,000人の来場者に対して防災意識の高揚を図ることができました。特に、アウトドア防災ガイド(あんどりす氏)によるアウトドア防災講演会及びチャイムによる防災漫才等を通じて、親子世代などの若年層の市民に対して、防災に興味を持つきっかけを提供することができました。また、当日は、まちだ防災カレッジ公式アンバサダーの協力を得て、協定機関の紹介を行うとともに、後日SNS等により防災フェスタ2023の実施状況等を周知してもらいました。 アウトドア防災ガイド(あんどりす氏)によるアウトドア防災講演会及び防災ワークショップを開催しました(「玉川学園・南大谷地区(町田第五小学校)」:9月9日開催、約100名対象、「町田第二地区(町田第一中学校)」:9月20日開催、約250名対象)。その結果、将来の地域防災力の担い手づくりに努めるなど、防災教育の推進を図ることができました。 6月1日に運用を開始した防災システムにおいて、習熟度向上訓練を実施することで、デジタル技術を活用した情報収集を行うなど、DX推進に努めることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 11月25日に実践的かつ効果的な「救出救助訓練」を実施することで、防災関係機関の防災体制の強化をより一層促進します。 各種訓練や啓発イベント等を引き続き分散して実施することで、内容を充実させるとともに、市民に対して継続した防災意識の働きかけを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度については、台風・豪雨等による自然災害や、感染症の流行等による影響はありませんでしたが、演習や啓発イベントの開催日程を予め分散して実施することで、一つ一つの内容をより充実させることができました。加えて、救出救助訓練の実施による防災関係機関の防災体制の強化や、防災フェスタでの多数の来場者に対する防災意識の高揚を図ることができました。さらに、総合防災訓練を通年で実施することで、市民に対して継続した防災意識の働きかけを行うとともに、社会情勢の変化に合わせてイベント内容を変更するなど、柔軟に対応することができました。 防災訓練とは意識せずに楽しみながら防災を体験・学習できる「防災フェスタ」や「アウトドア×防災」のイベントを開催することで、特に子育て世代を含めた若年層の市民に対して防災に興味を持つきっかけを提供することができました。また、子育て世代と自主防災組織の活動を担う役員が一同に集うことで、日頃は接点が少ない地域住民が自然に交流できる場にもなり、地域の防災力向上につながることでできました。 	実施	B	B:実績値は目標値どおりだったが、通年で実施することで、社会情勢の変化に合わせてイベント内容を変更するなど、柔軟に対応できるプラスの効果があったためです。	<ul style="list-style-type: none"> 演習や啓発イベントについて、より多くの市民に周知し、さらなる充実を図るため、デジタルツールやあらゆる媒体を活用し広報するとともに、1年を通じて継続的に実施していきます。 「アウトドア×防災」を市民一人ひとりに周知し、避難の選択肢のひとつとして、在宅避難という考え方を浸透させるため、訓練内容がマンネリ化せず楽しみながら災害時に必要なスキルを身に付けてもらえる防災イベントや講演会を継続して実施し、地域防災力の向上に努めていきます。

部課名		防災安全部市民生活安全課											
課の使命		町田市に関わる全ての人・団体・企業等とともに、防犯・交通安全の意識を高め、活動に携わり、周囲に大切さを伝える好循環を協力してつくりあげることで、将来にわたって安全・安心な暮らしを実感できるつながりの輪を広げていきます。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	計画類型	取組項目	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	中間確認		年度末確認				
							上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	目標値に対する実績値	評価	評価の視点	課題と対応
1	重点事業プラン	協働パトロールの実施	<ul style="list-style-type: none"> 警察や地域団体などと定期的の実施している協働パトロールに加え、親子や外国の方、学生など幅広い方々を迎え入れて実施する協働パトロールについても拡充していきます。 	①協働パトロール回数 ②協働パトロール参加人数	①48回 ②700人	○	<ul style="list-style-type: none"> 上半期の目標回数を上回る、26回の協働パトロールを実施し、361人の方に参加いただきました。 警察や地域団体と連携して、事業者団体との協働パトロールを行いました。 下半期の実施に向け、親子や外国の方、学生の関係団体の方に働きかけを行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、定期的に協働パトロールを実施します。 働きかけを行っている各関係団体との協働パトロールを実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な協働パトロールに加え、夜間の客引き防止パトロールや環境美化パトロールを実施することができたため、目標値を上回る58回実施でき、852人の方に参加いただくことができました。 関係団体に働きかけを行い、親子世代の方、学生の方との協働パトロールを実施することができました。また、警察や地域団体とも連携して地域の実情に応じたパトロールを実施できました。また、外国の方とのパトロールについては今年度中の実施には至りませんでしたが、来年度の実施に向けて、引き続き関係団体との調整を行っていきます。 	①58回 ②852人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	夜間における街の賑わいの回復等に伴い、居酒屋等の客引きが増加してきており、繁華街の景観やイメージの毀損などの悪影響を及ぼしています。今後は、パトロール経路や実施時間帯を見直すなど、客引き行為等の対策を一層強化していきます。
2	重点事業プラン	交通安全ミーティングの実施	<ul style="list-style-type: none"> 市民が交通安全に関する疑問等を気軽に聞くことができるミーティングを実施し、そこで得た情報を基に市が行う啓発活動に活用していきます。 多くの方に参加いただけるよう、これまで参加していただいた方の声を参考にチラシ配布やホームページ等を通して参加の呼びかけを行います。 	①交通安全ミーティング実施回数 ②啓発人数	①6回 ②5,000人	△	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業への準備対応のため、8月に予定していた交通安全ミーティングを2月に延期したことにより、上半期は1回の実施にとどまりましたが、ミーティングで得た情報を活用し、2,440人の方に啓発活動を実施しました。 ミーティングの事前に、参加者にVRゴーグルによる交通安全シミュレータを体験いただいたことで、交通ルールや交通事故リスクを自分の問題として認識した積極的な意見交換ができました。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通事故の傾向を踏まえ、事故件数が多い若年層や高齢者層を対象とした、交通安全ミーティングを実施し、そこで得た情報を啓発活動に活用していきます。 多くの方に交通安全ミーティングへ参加いただけるよう、チラシ配布やホームページ等を通して参加の呼びかけを行います。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通事故件数が多い若年層や高齢者層を主な対象として、交通安全ミーティングを6回実施し、また、ミーティングで得た情報を活用し、6,310人の方に啓発活動を実施しました。 ホームページや広報まちだ12月1日号に交通安全に関する特集記事を掲載し、交通安全ミーティングの参加を呼びかけました。 	①6回 ②6,310人	C	C:目標水準を達成したためです。	市内における年間の交通事故発生件数は3年連続で増加しています。引き続き交通安全ミーティングを実施し、市民に周知する必要がある交通安全情報を収集するとともに、得られた情報を啓発活動に活用し、効果的に情報発信を行います。
3	-	業務ミーティングの実施	<ul style="list-style-type: none"> 課の使命や各計画の目標を設定するまでの経緯等について課員全員の認識を合わせます。 業務ミーティングの対象となる事業を選定し、業務の最適化や効率化に加え、魅力的な事業にするための視点をもって、課員全員で各事業の改善案をつくります。 改善案を実行後、その評価も課員全員で行い、更なる改善につなげていきます。 	業務ミーティングを実施し、振り返りをした事業数	5事業	○	<ul style="list-style-type: none"> 課の使命や各計画の目標を設定するまでの経緯等について課員全員で認識を合わせたうえで、課で実施している啓発活動について話し合い、活動の方向性を決定しました。 4事業について業務ミーティングを実施し、業務最適化・効率化に加え、魅力的な事業にするための改善案を課員全員で検討しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務ミーティングの対象となる事業をさらに1事業選定し、改善案を課員全員で検討します。 検討した改善案の実行状況を課員全員で評価し、更なる改善を図っていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 5事業について業務ミーティングを実施し、業務手順の最適化やスケジュールの効率化に加え、事業そのものの魅力向上に繋がる改善案を課員全員で検討しました。 検討した改善案の実行状況について、課員全員で振り返り、取り組む中で見えてきた修正点について検討し、更なる改善を図ることができました。 	5事業	C	C:目標水準を達成したためです。	業務ミーティングを実施する中で、事業実施に関する業務効率化等の意識が課内に定着しました。引き続き、他の事業についても業務ミーティングを通じて検討を行い、業務最適化・効率化等を図ります。